

# 腎臓内科

## 腎臓内科の診療、教育、研究理念

腎臓内科のミッション：腎臓病を通じて、疾患の根源に迫る探究心を持ちつつ、全人医療を実践する。

### A. 体制

#### 1) 診療体制

**部長（医学研究所副所長兼務）：武曾恵理**

学歴：昭和51年 京都府立医科大学卒

専門：内科学、腎臓病学、透析療法学、臨床免疫学、循環病態学

資格等：京都大学医学博士、京都大学医学部臨床教授、京都大学医学部非常勤講師（腎臓病学）、  
中華人民共和国・復旦大学上海医学院客員教授、中華人民共和国・復旦大学附属崑山病院客員教授・顧問  
（兼任）

日本内科学会認定医、同認定総合専門医、同認定指導医 日本内科学会近畿地方会評議員

日本腎臓学会理事 日本腎臓学会認定専門医、同認定指導医 日本透析医学会認定専門医、同認定指導医

日本循環器学会専門医 日本アフェレシス学会評議員 米国腎臓学会会員 欧州腎臓学会会員、  
国際腎臓学会会員

日本腎臓財団評議員・財団法人大阪腎臓バンク評議員、社団法人日本臓器移植ネットワーク西日本支部地域  
評価委員

大阪府医師会勤務医部会第8ブロック常任委員、

**副部長：米本智美**

学歴：平成2年 関西医科大学卒

専門：内科学、腎臓病学、透析療法学、糖尿病性腎症学

資格等：福井大学医学博士、日本内科学会認定医、同認定指導医、日本腎臓学会認定医、同認定指導医  
日本透析医学会認定医、同認定指導医

**副部長：鈴木洋行**

学歴：平成6年 浜松医科大学卒

専門：内科学、腎臓病学、高血圧、慢性腎臓病

資格等：浜松医科大学医学博士、日本内科学会認定総合内科専門医、日本腎臓学会評議員、日本腎臓学会認定専門  
医・指導医、日本透析医学会専門医

**副部長：古宮俊幸**

学歴：平成10年 愛媛大学医学部卒

専門：内科学、腎臓病学、腎移植学、膠原病学、透析療法学、バスキュラーアクセス

資格等：大阪市立大学医学博士、日本内科学会認定医・同認定総合専門医、日本腎臓学会認定専門医  
日本透析医学会認定医、日本リウマチ学会専門医、日本臨床腎移植学会認定医

**副部長：鳥越和雄**

学歴：平成12年 京都大学医学部卒

専門：内科学、腎臓病学、

資格等：日本内科学会認定医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医

**副部長：遠藤知美**

学歴：平成12年 滋賀医科大学卒

専門：腎炎、慢性腎不全、腎尿細管再生研究

資格等：日本内科学会認定医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医

**医員：池田昌樹**

学歴：平成17年 神戸大学医学部卒

資格等：日本内科学会認定医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医

**レジデント：垣田浩子**

学歴：平成20年 愛媛大学医学部卒

**レジデント：三宅崇文**

学歴：平成21年 大阪医科大学卒

**レジデント：姜 伶奈**

学歴：平成22年 京都大学医学部卒

**レジデント：山口亮平**

学歴：平成22年 神戸大学医学部卒

そのほか研修医：中森 裕毅、小坂由紀、柴 昌行、岩崎 惇、稲葉 啓通、中村 敬、加藤了資 研修医は時期に応じ配属された。

看護師：看護部報告参照

臨床工学技士：深澤 晃、辻 宜樹、祖開裕子、清家崇之、藤井雅基（MEセンター、血液浄化センター担当）

## 2) 研究体制

研究員： スタッフに加え、宇野賀津子（レイ・パストゥール医学研究センター室長）、猪原登志子（京大病院、探索医療センター）、米倉由利子（神戸大学）、立石悠（大阪市立大学大学院）、佐藤有紀（京都大学大学院）、塚本達雄（京都大学大学院）各非常勤研究員と共同研究を、岩崎由加子 技術補佐員が主に第3研究室での研究を受け持った。

## B. 診療実績

### 1) 予防医学部門（健診部）

米本医師が健診部から平成24年3月より腎臓内科専任となり、直接の関与はなくなった。

### 2) 外来

腎臓内科と一般外来の併診：連日1診30-50名と診療者により差がある。平均40名程度。新患は5-10人程度である

他府県からの紹介も多くなっている。逆紹介を積極的に進め、外来待ち時間の短縮、および一人当たりの診察時間のゆとりを持たせることを心がけた。

腎臓内科専門外来：週2回（火、水、木）に半日診察：原則として予約制 平均25人の受診者？

木曜日の午後古宮医師は移植外来として活動。

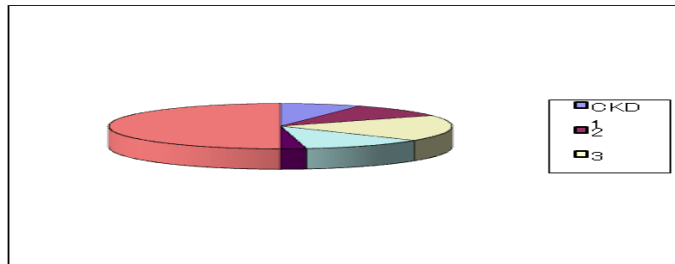
	月		火		水		木		金		土
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
5診	武曾	武曾	古宮	古宮	遠藤	遠藤	鈴木	鈴木	池田	池田	交代
7診				武曾				古宮			
8診						武曾			米本	垣田	
18診		鳥越									

(2012. 3. 31 外来表)

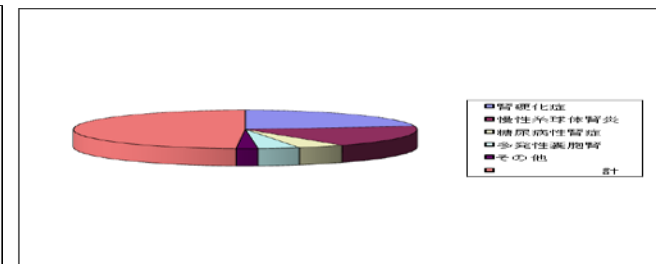
地域連携パスの推進：H21年度に地域医療センターとの連携で北野〜かかりつけ医ネットワーク（K2 ネット）を立ち上げ、勉強会を重ねている。また、同時期より、地域医師会、病院間で、CKD 地域連携パスを情報共有のツールとして使用開始し、連携強化を図っている。CKD 地域連携パスは、メディア、学会等での広報も進んでいる。

H24年1月時点で、患者実数：290名、地域連携診療所数：224件 となった。？

### 1. CKD ステージ別分類



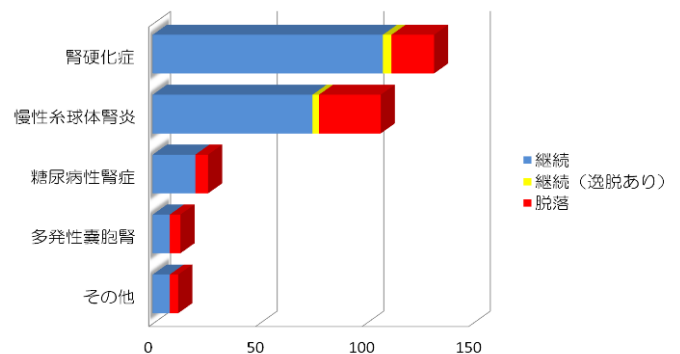
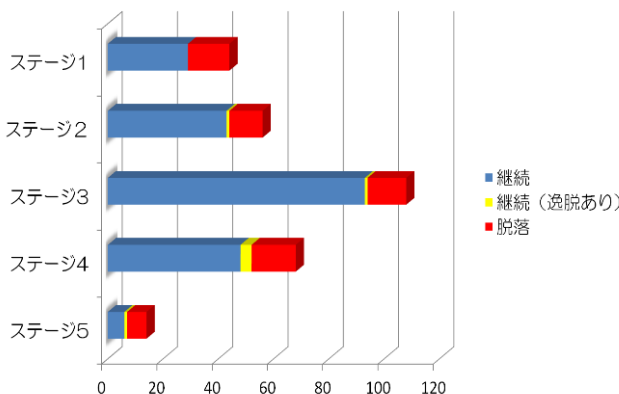
### 2. 病名別分類



3. 対象患者年齢平均 ; 63.6 ± 18.1

4. パス脱落発生率 ; 22.0 % ステージ別解析

5. パス脱落発生率 ; 疾患別解析



6. 脱落患者のバリエーション解析 ; ステージ別 ; 別表参照下さい

今後患者満足度調査や、逸脱、脱落例解析、バリエーション解析、腎機能低下速度軽減効果（腎死率軽減）の検討を計画している。また、医師会からの要請で、各病院間でのパス統一を図るべく、病院間会議を地域医療センターとともに進めている。

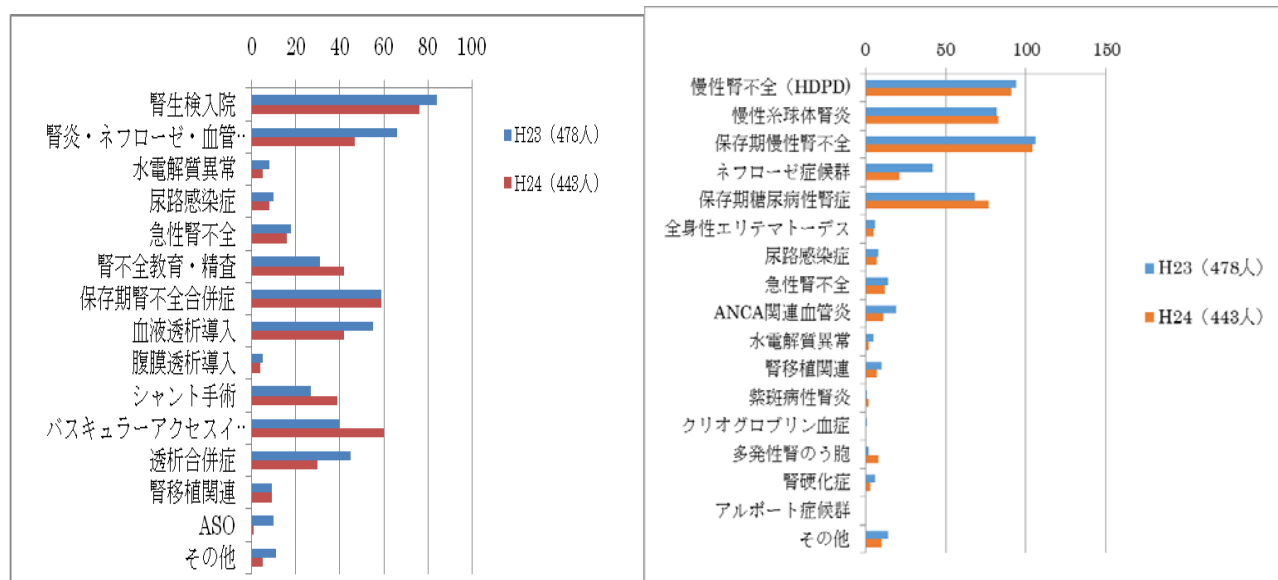
3) 病棟

8 F 東および10 階西病棟で、心臓センター・血液内科との混合病棟での診療。病棟医長は古宮医師。

a. 入院患者数および原因疾患

入院総患者数は443人であった。

原因疾患別（左）および入院動機別（右）内訳は以下のとおりである。



本年度は慢性腎不全、慢性糸球体腎炎、保存期慢性腎不全患者の入院はほぼ昨年同様であった。保存期糖尿病性腎症の入院はやや増加した。入院の動機として、腎生検および腎炎・ネフローゼ症候群治療入院が多くをしめるが、前年をやや下回った。また教育入院が増加しており、一定の成果を上げた。慢性腎不全患者（血液、腹膜透析患者）では透析導入はややしたまわったが、ブラッドアクセスに関する入院は大幅に増えた。

b. 主たる疾患の治療動向

● 一次性腎疾患

① IgA 腎症

			H22	H23	H24
IgA 腎症	低リスク群 発生数	件	14	20	10
	中等度リスク群 発生数	件	11	12	16
	高リスク群 発生数	件	12	7	5
	超高リスク群 発生数	件	5	7	7
	総数	件	42	46	38

本年度はやや発症数が少なかったが、今年度の特色として、中等リスク群がやや多かった。扁桃摘出とパルス療法を組み合わせた治療について、以下のような分類となった。

低リスク群	10	保存療法	8	ステロイド単独療法	0	ステロイド+扁桃摘	2
中等度リスク群	16	保存療法	7	ステロイド単独療法	7	ステロイド+扁桃摘	2
高リスク群	5	保存療法	2	ステロイド単独療法	1	ステロイド+扁桃摘	2
超高リスク群	7	保存療法	1	ステロイド単独療法	3	ステロイド+扁桃摘	3
総数	38		18		11		9

後方視的な解析であるが、ステロイド単独治療は中等度以上のリスク群で施行したが、扁桃摘出+ステロイド群では、原則として、感冒後の増悪を繰り返す血尿、タンパク尿陽性例で施行しているが、結果としては、低リスク群にも希望がある場合症例ながら施行している。従来耳鼻科での扁桃摘後、しばらく経過を診て、まったく尿所見が陰性化するもの

には、パルス療法施行をしない例もあった。一方、尿所見の持続するものには、ステロイド治療を行った。昨年からは、合計入院期間の短縮を考え、本年度から耳鼻科から引き続いて腎臓内科に転科して一回のパルス療法後に退院。しばらく経過を診て、反応が十分でなければ2回目パルス療法とする症例が増加した。

② 難治性ネフローゼ症候群

巣状分節性糸球体硬化症 (FGS) の発症が低下している。膜性腎症の発症が例年より多かった。膜性腎症治療中の感染症発症が問題となる症例が数例あった。完全寛解導入率は、ほぼ例年通りであった。成人の微小変化型ネフローゼ症候群の頻回再発例で難治する症例があり、カルシニューリン阻害剤の継続投薬による弊害は重要課題である。

代表的ネフローゼ症候群 寛解導入率(6カ月)	巣状糸球体硬化症 2007年からの総数 (年度発生数)	件	13 (2)
		寛解率	46.2 (6/13)
	膜性腎症: 2007年からの総数(年度発生数)	件	34 (11)
		寛解率	41.2 (14/34)
	微小変化型ネフローゼ症候群: 2007年からの総数 (年度発生数)	件	14 (4)
		寛解率	85.7 (12/14)

● 二次性腎疾患

① 多発性血管炎

当科では厚生労働省難治性血管炎治療プロトコールにのっとり、標準治療の予後検討に参加している。一方、大量の免疫抑制療法による感染症などの副作用が予後を悪くしている事にかんがみ、免疫補助療法として、免疫グロブリン大量療法 (IVIg) 治療を行い効果を発信してきたが、チャージ・ストラウス症候群の神経症状には保険収載された。その後、もっとも頻度の高いMPAの神経障害に対する、IVIgの後期第II相試験にも、参加している。本年は新たな発生は3名のみであった。

ANCA 関連血管炎	2001年度からの総数 (年度発生件数)		件	49 (3)
	腎予後	2001年度からの腎死率 (*経過不明者を除く)	%	31.1 (14/45*)
		腎生検から3ヶ月以内の腎死率	%	14.6 (7/48)
		腎生検から3ヶ月以内の腎死率 (* *腎生検時透析導入症例を除く)	%	6.8 (3/44)
	生命予後	発症後5年以内の死亡率	%	26.0

② 糖尿病性腎症

糖尿病性腎症については、合併症症例について腎生検を一定の症例で行っているが、透析導入原因症例としては、最多を続けている。あらたな治療薬として、インクレチン製剤がこの分野で席卷してきており、治療のパラダイムシフトが起りつつあるが、腎症に関してもその影響が出るかが注目される。

c. 二次性副甲状腺機能亢進症

慢性腎不全に伴う二次性副甲状腺機能亢進症に対して、ビタミンDおよびシナカルセトを組み合わせた治療法により同症の維持・寛解を目指す施設共同臨床研究を実施中である。また、手術適応となった患者の術前評価・腫大副甲状腺の部位診断などを実施し、手術の際には腎臓内科入院で手術は当院耳鼻咽喉科が担当し周術期管理は腎臓内科医が分担している。

4) 検査

a. 腎生検

腎臓内科では腎組織の病態解析が即、治療の方針決定に結びつくため、腎生検を積極的に行っている。しかし、あく

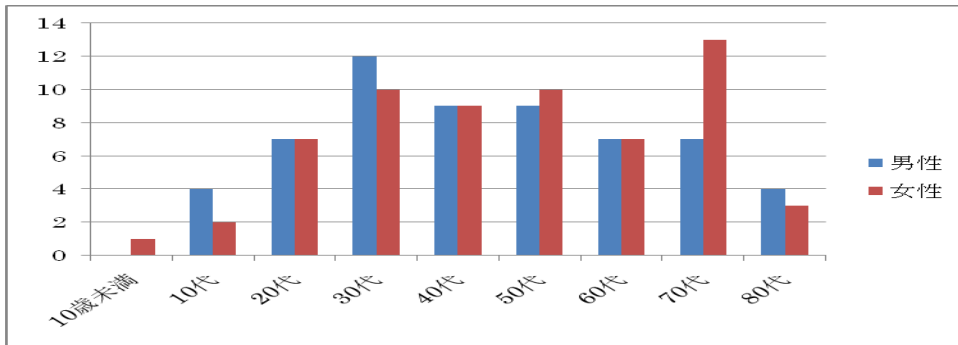
まで侵襲的な検査であることをふまえ、その危険性とメリットを十分患者様及びそのご家族に納得してもらい、同意を得た上で慎重に症例を選んで行っている。また、その組織の取り扱いや、それから得られる情報を用いた研究についての説明もし、別途同意を得ている。当科ではクリニカルパスを用いて5日間の検査入院を行っている。

曜日	入退院	病棟指導	特殊検査
月	入院	蓄尿開始 特殊食開始	
火			Ccr, PSP, 濃縮力テストetc, 腎エコー
水			腎生検
木		安静 食事指導	腎エコー (オプション)
金	退院		

腎生検後6時間安静、その後トイレ歩行可  
生検結果の報告は翌週火曜日 (腎生検カンファレンス) 後 (緊急時をのぞく)

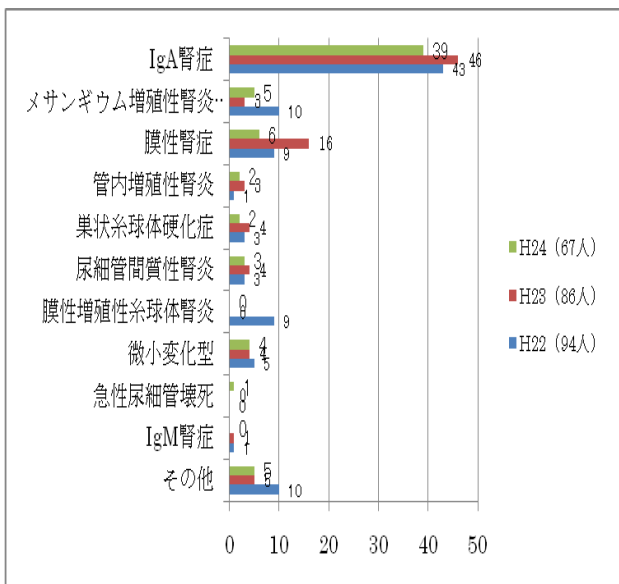
症例数は121人で、男女比は59:62で女性に多く、特に70代の女性が多かった。

i) 腎生検者の年齢分布

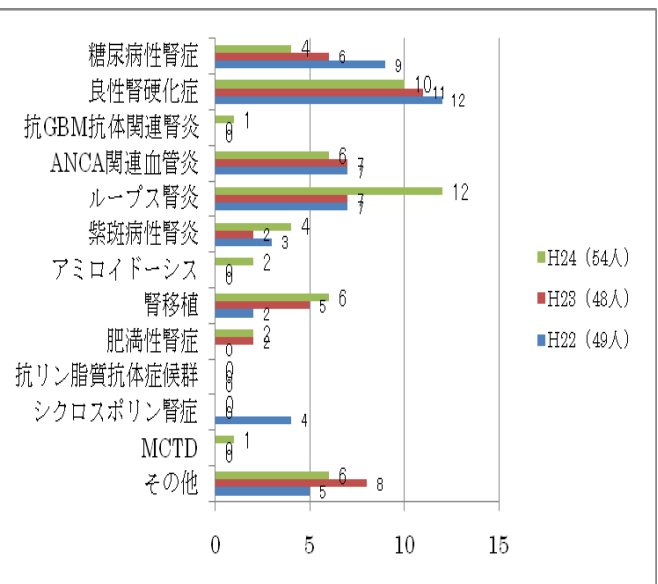


ii) 腎生検診断による腎臓疾患の内訳

一次性



二次性



b. 腎臓内科超音波検査

外来患者を対象として毎週木曜日午後、腎臓を中心とした腹部超音波検査を実施し腎形態異常・血流障害の有無等の診断している。

c. 血圧日内変動検査

入院中のみならず、外来でも検索ができるように腎臓内科特別枠で教育入院時に施行できるようになった。

d. 副甲状腺超音波検査

H22年度までは塚本医師が慢性透析患者を対象として週2回行っていた。H22年までの実績は以下のとおりである。平成15年度47例、16年度71例、17年度84例、18年度87例、19年度120例、20年度155例、21年度189例、22年度163例。

塚本医師の京大就任でいったん途絶えていたが、今年度H24年10月10日より検査部の協力を得て、鈴木洋行医師同

席のもと毎週水・木曜日 14:45～16:15 の枠で再開した。同検査は地域医療サービスセンターを介して他院から直接オーダー可能である。今年度（H24年度）腎臓内科依頼実施件数は34例であった。

e. 骨密度検査

DXA法により腰椎、前腕での骨密度測定をステロイド性骨粗鬆症およびCKD-MBD評価目的に行っている。

5) 血液浄化センター

a. ベッド数：同時透析数30名（月、水、金は2クール、火、木、土は1クール）、最大透析患者数85名

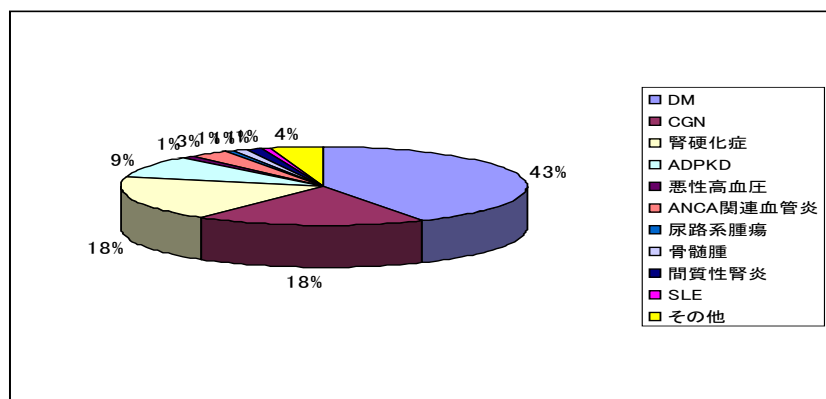
b. 稼働率：24年度 午前96.3% 午後98.6%

c. 対象患者数：血液透析が多いが、24時間以上の持続的血液透析（CHD）は適応を限定している。アフェリシス治療は、消化器センター、血液内科、神経内科、リウマチ膠原病内科との共同作業であり、腹水濃縮は婦人科あるいは消化器センターからの依頼である。

d. 透析導入と原疾患：60名の透析導入（血液透析58名・腹膜透析2名）

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年
透析導入総数	37	35	45	62	52	54	55	60	54	60
腹膜透析	0	4	5	7	11	4	4	8	5	2
透析相談・看護師外来			29	29	48	65	227	162	160	172

透析導入原疾患の割合は以下のとおりである。



e. 体外循環治療の内訳：体外循環総数12964回の体外循環治療を施行し、入院患者比率は年平均37%であった。

午前透析回数8670回（入院比率29.1%）、午後透析回数（入院比率3.4%）

	HD	CHD	血漿交換	血液吸着			PBS-CH	G-/L-CAP	腹水濃縮
				LDL-A	IAPP	PMx			
H13	214	0	9	6			2	1	
H14	260	0	11	20			3	3	
H15	301	7	13	4			20	2	
H16	321	4	9	12			23	8	
H17	306	3	6	4		4	16	12	5
H18	319	2	3	2		2	14	27	13
H19	312	5	13	4	1	4	19	33	29
H20	323	7	11	3	2	9	13	24	13
H21	345	4	15	5	2	0	12	23	17
H22	343	1	11	5	14	1	13	19	19
H23	12656 (CHD含む)		54	5	48	43	16	121	19
H24	12648 (CHD含む)		69	30	7	30	16	153	10

\* H22年度以前は人数表示、H23年度から回数表示

f. 腹膜透析患者：総数26名（導入2名・離脱2名）で、HDへ移行は1名、HD併用は6名と増えた。移植へ移行は0名、死亡は0名、転院は0名となった。

g. 看護師外来：慢性腎臓病に関する生活指導および腎代替療法説明を平成24年度172名の患者に実施しており、そ

の需要はますます増えている。3

- h. **急性腎不全**：29 例の急性腎不全患者に対して血液透析・持続的血液透析を行ない 2 例の転帰維持透析、7 名が死亡、20 名が離脱した。これは昨年の 10 例を大幅に上回っており、救命率の向上がみられた。
- i. **出張透析**：ICU 303 件、CCU 14 件、その他 13 件（病棟、小児科、クリーンルーム、SCU 等）の出張透析を施行した。
- j. **外科手術対応**：外科手術を受けた慢性透析患者は腎臓内科に併診のもとで周術期透析を行った。

	H15 年	H16 年	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年	H21 年	H22 年	H23 年	H24 年
副甲状腺										
全摘術	4	8	9	12	23	8	2	1	14	3
PEIT	0	0	0	0	0	0	0	0		0
透析アミロイドーシス										
手根管症候群	1	0	3	2	3	4	1	0	2	0
バネ指	0	0	0	1	0	0	3	0	2	0
その他の骨関節	3	3	10	1	7	14	10	11	3	0
循環器系										
弁置換・CABG・大動脈瘤など	0	0	0	0	1	1	3	10	6	9
PTCA・ステント・PCI 等	5	5	2	4	1	16	8	7	12	10
消化器系										
外科手術	8	8	2	8	2	8	15	8	7	2
内視鏡手術	0	3	8	2	3	1	27	27	6	9
インターベンション	2	4	2	5	4	0	6	10	1	2
眼科系	7	6	5	10	17	27	17	25	6	16
脳神経外科系	0	3	2	8	1	5	3	2	6	2
閉塞性動脈硬化症										
外科手術	0	0	5	2	2	11	2	20	1	1
インターベンション	1	2	0	2	3	1	4	5	1	7
その他の手術	0	1	0	13	8	11	43	47	19	38
総数	31	43	48	70	75	107	144	146	86	99

### 5) 腎移植

H24 年に 1 症例の生体腎移植をおこなった（夫婦間）。

また、移植腎病理診断のシステムを整え、移植腎生検は 4 件（プロトコール生検 3 件。エピソード生検 1 件）を行った。

### 6) バスキュラーアクセスの作成・管理

腎臓内科にて自己血管内シャント作成 71 例、インターベンション 97 例の治療を行った。いずれも昨年よりおおよばに増加しており、腎臓内科でのブラッドアクセス手技のルーチン化が進んでいる。

人工血管 4 例については循環器科および天満中村クリニックへ依頼した。

## C. 教育体制

S R2 年目が 1-1.5 ヶ月でラウンドしており、以下のプログラムで研修する。

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
A.M. 8:00			抄読会(4F 奥面談室)	透析カンファレンス (HD 室詰所)	重症回診(10 西)	
9:00		病棟回診(10 西)				
			透析室回診			
10:00						
		透析室回診	腎生検(10 西処置室)			

11:00				腎臓内科薬説明会 (5F 第6会議室)		
P.M.0:00				病棟カンファレンス (10 西)		
1:00			内シャント手術(ope 室)			
2:00						
3:00		腎生検カンファ レンス(4F 奥面 談室)		腎エコー (3F 生理検査室)		
4:00	カルテ回診 (4F 奥面談室)					
5:00					*腎移植カンファ レンス(第1週目)	
6:00			京大北野腎病理カン ファレンス(第3週目 に京都大学で開催)	内科抄読会 内科CC (5F 会議室)		
7:00		関西腎疾患カン ファレンス(毎 月最終火曜日に 山西会館で開 催)				

\* 血液透析(4F 血液浄化センター) 月水金 9:00-20:00 , 火木土 9:00-15:00

\* 腹膜透析(PD)外来(4F 血液浄化センター) 月火木 10:00-14:00

\* シャントPTA(地下1F アンギオ室) 月水金

PD 外来、シャントPTA、シャント形成術、腎生検カンファレンスは時間の前後あり。毎回確認を要す。

### 「関西腎疾患カンファレンス」について

当院腎臓内科主催で月に一度関西一円の腎臓内科を有する施設から診断に迷う腎生検症例の提示をおこなってもらい、検討し診断、治療の方針をきめる。

主催者： 武曾恵理

実施場所：北野病院・山西福祉記念会館

回	年月日	人数	所属	演者	演題
116	24.4.3	15	大阪市立総合医療センター	柴田 幹子	非特異的なIgA沈着を伴ったマシキウム増殖性腎炎の1例
			北野病院	池田 昌樹	腎障害肝障害を伴ったネフローゼの1例
117	24.4.24	24	日赤和歌山医療センター	村田 祐也	ワーファリン腎症合併の可能性が疑われたANCA関連腎炎の1例
			社会保険神戸中央病院	笠原 優人	急速に腎機能の低下した間質性腎炎の1例
118	24.5.29	23	日赤和歌山医療センター	川村 俊介	抗核抗体陽性の尿蛋白陽性の1例
			社会保険神戸中央病院	藤堂 紘行	骨髄腫と蛋白尿のある48歳男性
			神戸市立西神戸医療センター	大山 敦嗣	血尿・蛋白尿の精査目的で入院した症例
119	24.6.26	21	神戸市立西神戸医療センター	大山 敦嗣	ネフローゼ症候群の既往のある悪性リンパ腫の1例



			社会保険神戸中央病院	渡部晃一	高齢男性に発症した巣状糸球体硬化症の1例
120	24.7.24	25	日赤和歌山医療センター	川村 俊介	MCTD 自己免疫性肝炎に合併したループス腎炎の1例
			神戸市立西神戸医療センター	大山 敦嗣	紫斑病性腎炎の治療を中断した1例
121	24.9.4	19	社会保険神戸中央病院	御船 朋代	急性腎不全を呈した治療抵抗性の IgM 腎症が疑われるネフローゼ症候群の1例
			神戸市立西神戸医療センター	大山 敦嗣	紫斑病の治療後に関節リウマチが顕在化した症例
122	24.9.25	19	大阪市立総合医療センター	森川 貴	小動脈と PTC の血管炎を主体とした ANCA 関連腎炎の1例
			日赤和歌山医療センター	川村 俊介	IgA 腎症と診断されていたが4年後に難聴を指摘された1例
			社会保険神戸中央病院	笠原 優人	ネフローゼ症候群と血尿を認めた1例
123	24.10.30	21	日赤和歌山医療センター	山地 秀平	アレルギー性紫斑病でフォロー中にネフローゼ症候群・急性腎障害を来した1例
			北野病院	垣田 浩子	IgA 型の抗 GBM 型腎炎の1例
124	24.12.11	16	日赤和歌山医療センター	川村 俊介	HCV・肝硬変治療中に蛋白尿増加を認めた1例
			大阪市立総合医療センター	岸田 真嗣	HIV 治療経過中に発症したネフローゼ症候群の1例
			神戸市立西神戸医療センター	大山 敦嗣	幼少時より血尿・蛋白尿を認めるらしい女性の1例
125	25.1.29	14	住友病院	森島 淳之	IgA 腎症の1例
			大阪市立総合医療センター	森川 貴	肺癌に対する Pemetrexed 投与後に IgG4 関連腎炎を発症した1例
			日赤和歌山医療センター	川村 俊介	紫斑に伴って発症したネフローゼ症候群の1例
126	25.2.26	13	日赤和歌山医療センター	川村 俊介	乏尿を認め急速に進行した腎不全の1例
			北野病院	姜 伶奈	免疫複合体腎炎に合併した ANCA 関連腎炎

「京大・北野腎病理カンファレンス」 「京大・北野腎病理強化カンファレンス」について

世話人代表：京都大学 医学部 病院病理教授 羽賀博典先生

実施場所：京都大学附属病院臨床棟地下

回	年月日	人数	所属	演者	演題
80	2012. 6. 20	9	京都民医連中央病院 腎臓内科	木下千春	20歳より尿蛋白が持続する糖尿病の1例
			京都医療センター 腎臓内科	金子恵一	神経性食思不振症患者に発症した腎機能障害
81	2012. 7. 18	17	京都大学 内分泌代謝内科・腎臓内科	金城智章	ネフローゼ症候群で発症した BJP 陰性 κ-型軽鎖重鎖沈着症の1例
			京都医療センター 腎臓内科	村田真紀	貧血を合併した急性腎症候群の1例
			京都大学病院 腎臓内科	西岡敬祐	後腹膜腫瘍精査中にネフローゼ症候群と診断された1例
82	2012. 8. 22	13	北野病院 腎臓内科	垣田浩子	移植後再発性腎炎の1例
			北野病院 腎臓内科	垣田浩子	血尿蛋白で来院され HIV 陽性であった1例
83	2012. 9. 19	12	京都医療センター 腎臓内科	金子恵一	紫斑とネフローゼ症候群を伴う急速進行性腎炎症候群の高齢男性
			北野病院 腎臓内科	垣田浩子	RPGN の1例
84(11)	2012. 10. 13	39	京都大学病院 腎臓内科	熊原 加奈	ネフローゼで発症し軽鎖重鎖沈着症と考えられた1例
			北野病院 腎臓内科	垣田浩子	再発性腎炎が疑われた1例
85	2012. 10. 17	10	京都大学病院 腎臓内科	遠藤修一郎	生体肝移植2年後の腎機能低下症例
			北野病院 腎臓内科	姜 伶奈	MPO-ANCA が高値であった糖尿病の1例
86	2012. 11. 21	9	北野病院 腎臓内科	三宅崇文	強皮症腎の1例
			北野病院 腎臓内科	三宅崇文	急性腎炎症候群を呈した糖尿病の1例
87	2012. 12. 19	8	京都大学病院 腎臓内科	宮田仁美	3歳発症ステロイド感受性頻回再発型ネフローゼ症候群の1例
			北野病院 腎臓内科	池田昌樹	IgG の著明増加とともに急激な腎機能障害を呈した1例
88	2013. 1. 16	9	北野病院 腎臓内科	三宅崇文	感染を契機に発症した原因不明のネフローゼ症候群の1例
			京都民医連中央病院 腎臓内科	木下千春	MRSA 創部感染治療中に腎機能障害を呈した糖尿病の1例
89	2013. 2. 20	12	北野病院 腎臓内科	姜 伶奈	免疫複合体型腎炎の経過中に RPGN を来した1例
			京都医療センター 腎臓内科	菊池 祐子	著明な低補体血症を呈した急性尿細管間質性腎炎
90(12)	2013. 3. 9	30	京都大学病院 腎臓内科	遠藤修一郎	生体肝移植2年後の腎機能低下症例
			北野病院 腎臓内科	池田昌樹	IgG の著明増加とともに急激な腎機能障害を呈した1例
91	2013. 3. 13	8	北野病院 腎臓内科	山本伸也	CREST 症候群の経過中に発症したネフローゼ症候群の1例
			京都大学病院 腎臓内科	遠藤修一郎	自己免疫性肺炎と糖尿病の加療中に急性のネフローゼと下肢筋力低下と直腸膀胱障害を合併した1例

\*第84回と90回は強化カンファレンス

## 研究課題

## 1 慢性糸球体腎炎の基礎的、臨床的研究

## 1) 臨床研究

- a. IgA 腎症の腎病理所見と予後の関連に関する前向き多施設共同研究  
(厚生労働科学研究補助金事業)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)

## 2 急速進行性糸球体腎炎および全身血管炎の基礎的、臨床的、疫学的研究

## 1) 基礎研究

- a. MPO-ANCA 陽性顕微鏡的多発血管炎 (MPA) の血液細胞での M-ficolin 転写誘導と腎での陽性細胞の局在 (文科省科学研究費申請課題)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)
- b. ヒト疾患特異的 iPS 細胞を用いた遺伝子解析研究  
(難治性血管炎対象研究) : 京都大学 iPS 細胞研究所との共同研究  
(武曾恵理)
- c. 好中球細胞質抗体関連血管炎関連遺伝子に関する研究 (RemIT-JAV、RemIT-JAV RPGN との連携)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)

## 2) 臨床研究

- a. ANCA 関連血管炎における急速進行性腎炎へのヒト免疫グロブリン大量投与による血中サイトカインと、好中球機能への影響の解析  
(厚生労働科学研究補助金事業)  
(武曾恵理、猪原登志子、宇野賀津子)
- b. MPO-ANCA 関連血管炎の腎病理所見パラメーターの有用性の検討:  
(仙台社会保険病院、杏林大学、自治医科大学との共同研究)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文、岩崎由加子)
- c. 血管炎治療の標準化に寄与する腎病理組織分類に関する前向きおよび後ろ向き多施設共同研究  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文、岩崎由加子)
- d. 抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎の寛解導入治療の現状とその有効性と安全性に関する観察研究 (厚生労働科学研究補助金事業)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文、岩崎由加子)
- e. MPO-ANCA 関連血管炎の寛解維持療法におけるミゾリビンの有効性・安全性および血中濃度の関連性に関する多施設共同研究 (厚生労働科学研究補助金事業)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文、岩崎由加子)
- f. 人工ガンマグロブリンの製剤化への安全性と臨床研究にむけた評価系の確立  
(厚生労働省科学研究補助金事業)  
(鈴木和男、武曾恵理、宇野賀津子)
- g. ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を呈する巣状糸球体硬化症に対する LDL アフェレシス治療の有効性に関する多施設共同研究  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)
- h. GGS の顕微鏡的多発血管炎 (MPA) を対象とした非盲検非対照による投与前後比較試験 (第II相試験)  
(腎臓内科 : ©武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文、

神経内科：松本禎之、齋木英資、尾崎彰彦、里井斉、青柳信寿、井内盛遠、村方健治、坂本光弘)

- i. 欧州リウマチ学会/米国リウマチ学会主導による原発性全身性血管炎の分類・診断基準作成のための研究 (多施設国際共同研究)  
(©武曾恵理、鈴木和男 (顧問)、猪原登志子 (客員研究員)、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)
- j. 抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎・急速進行性糸球体腎炎の寛解導入治療の現状とその有効性と安全性に関する観察研究  
(©武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)

※ 3) 疫学研究

- a. 好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎の本邦・欧州での臨床疫学調査および診断薬と治療法開発に関する研究 (厚生労働省科学研究補助金事業)  
(武曾恵理、猪原登志子、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)
- b. 抗好中球細胞質抗体関連血管炎関連遺伝子に関する研究  
(東京医科歯科大学大学院薬害監視学)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)

3 難治性ネフローゼ症候群に対する臨床的研究

- a. 難治性ネフローゼ症候群に対する LDL- アフェレシス治療の長期効果に関する前向き調査 (POLARIS 調査) (厚生労働省科学研究補助金事業)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文、深澤 晃)「腎と脂質研究会」
- b. 原発性ネフローゼ症候群症例を対象とした発症率、予後に関する観察研究 (前向きコホートタデー) (厚生労働省科学研究補助金事業)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)

4 多発性のう胞腎に関する基礎的再生研究

- a. ヒト疾患特異的 iPS 細胞の作成とそれを用いた疾患解析に関する研究 多発性嚢胞腎を含む難治性腎疾患の病態解析研究  
(京都大学 iPS 細胞研究所との共同研究)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文、秦大資\*、羽田敦子\*、水本洋\*、中畑龍俊\*\*、山中伸弥\*\*、長船健二\*\*\* : \*小児科、\*\*京都大学 iPS 細胞研究所
- b. 家族性のう胞腎の責任遺伝子群の変異の検索と未知遺伝子の探索  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文、小泉昭夫・京都大学大学院医学研究科環境衛生学 教授、人見敏明・京都大学大学院医学研究科環境衛生学 特定講師、長船健二・京都大学 iPS 細胞研究所 准教授)
- c. 多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究 (J-PKD レジストリー研究)  
(©武曾恵理 (ICRweb0001620)、金丸洋史\*、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文 : \*泌尿器科)

5 CKDの臨床的研究

- a. わが国の腎臓病疾患における腎生検データベース構築ならびに腎臓病総合データベース構築に関する研究 (厚生労働省科学研究補助金事業)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)
- b. オルメサルタン投与中のアルブミン尿を伴う慢性腎臓病併発高血圧患者におけるアゼルニジピンとアムロジピンの抗アルブミン尿効果の比較 (J-FLAG)  
(多施設共同研究)  
(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文、岩崎由加子)
- c. 生活習慣病の腎生検組織病変に及ぼす影響

- (古宮俊幸、三宅崇文、垣田浩子、池田昌樹、遠藤知美、米本智美、武曾惠理)
- d. ガンマグロブリンによる膜性腎症の治療有用性と安全性に関する研究  
(◎武曾惠理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)
- e. 看護師外来と地域連携パスを用いた慢性腎臓病 (CKD) 病診連携システムによるアウトカム研究  
(中村雅美、重田由美、古宮俊幸、米本智美、武曾惠理)
- f. オルメテック錠特定使用成績調査 (第 IV 相試験・HONEST study)  
(第 IV 相試験・多施設共同臨床試験への参加)  
(古宮俊幸、米本智美、武曾惠理)
- g. 高リン血症を呈する保存期の慢性腎臓病 (CKD) 患者における炭酸ランタンの 安全性および有効性を検討することを目的とした非盲検、非対照、長期投与試験 (二重盲検比較試験からの継続試験)  
(塚本達雄)
- h. 高リン血症を呈する保存期の慢性腎臓病 (CKD) 患者における炭酸ランタンの 有効性及び安全性を検討することを目的とした無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験  
(塚本達雄)
- i. TRK-100STP 第 IIb/III 相臨床試験-慢性腎不全 (原発性・腎硬化症) -  
(第 III 相試験・多施設共同臨床試験への参加)  
(武曾惠理、塚本達雄、古宮俊幸、米本智美)
- j. ダルベポエチンアルファによる非糖尿病性腎疾患患者の透析導入延長効果に関する研究  
(◎塚本達雄 (000242)、三宅崇文、垣田浩子、池田昌樹、古宮俊幸、米本智美、武曾惠理)
- k. 慢性腎臓病 (CKD) に合併する高尿酸血症に対する尿酸排泄促進治療の臨床的有用性に関する検討  
(武曾惠理 (ICRweb0001621)、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文、岩崎由加子)

## 6 血液透析の臨床的研究

- a. 血液透析患者の透析操作に関わる鉄喪失と補充に関する研究  
(辻宣樹、武曾惠理)

## 7 閉塞性動脈硬化症治療に関する臨床的研究

- a. 維持血液透析中の慢性閉塞動脈硬化症患者を対象とした自家末梢血管内皮前駆細胞移植による血管再生医療 (第 III 相試験)  
春名、古宮俊幸、米本智美、武曾惠理)

## 8 社会医療疫学研究

- a. 復旦大学-京都大学、華山病院-北野病院 医療共同研究プロジェクト  
(HWMC-KH Project) 上海在住日本人の健康管理に関する調査  
Huashan-Kitano Epidemiological Study for Health care of the Japanese in Shanghai  
(HKES 上海)  
(武曾惠理、北野病院上海プロジェクトワーキンググループ、Jingwen GU\*、華山医院ワールドワイドメディカルセンタースタッフ\* : \* Huashan Hospital Worldwide Medical Center)
- b. 医師の働きやすさに関する意識の経年的疫学研究 : 京都大学医療疫学教室との共同研究  
(武曾惠理、米本智美、男女共同参画委員会)
- c. スリランカで多発する慢性腎疾患の原因究明 (文部科学省/ J S T : 国際共同研究)  
武曾惠理、弓場吉哲\*、古宮俊幸、小泉昭夫\*\*、Rohana Chandrajith\*\*\* : \* 臨床病理部、\*\*京都大学大学院医学研究科 環境衛生学、\*\*\*スリランカ民主社会主義共和国ベラデニヤ大学

#### d. 腎臓内科におけるCKD地域連携パス確立の検討

(武曾恵理、米本智美、古宮俊幸、遠藤知美、池田昌樹、垣田浩子、三宅崇文)

#### 治験

1. AF37702 の透析導入前・rHuEPO 製剤投与中の慢性腎臓病患者を対象とした一般臨床試験
2. TRK-100STP 第Ⅱb/Ⅲ相臨床試験 一慢性腎不全(原発性・腎硬化)一
3. 高リン血症を呈する保存期の慢性腎臓病(CKD)患者における炭酸ランタンの安全性および有効性を検討することを目的とした非盲検、非対照、長期投与試験(二重盲検比較試験からの継続試験)
4. 高リン血症を呈する保存期の慢性腎臓病(CKD)患者における炭酸ランタンの有効性および安全性を検討することを目的とした無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験
5. 慢性進行性IgA腎症に対するカクテル療法の有効性に関する多施設共同研究
6. IgA腎症患者へのHE-69第一相試験
7. 抗好中球細胞質抗体(ANCA)関連血管炎の本邦・欧州間での臨床疫学調査および診断薬と治療法開発に関する研究
8. 難治性ネフローゼ症候群におけるプレドニゾンとシクロスポリンの併用療法に関する多施設共同研究
9. 難治性ネフローゼ症候群を呈する膜性腎症におけるプレドニゾンとミゾリビンの併用療法に関する多施設共同研究
10. MPO-ANCA 関連血管炎に対する標準的治療プロトコールの有用性を明らかにする前向き臨床試験
11. 末梢動脈疾患患者における標準療法に対する標準療法及びG-CSF 動員自家末梢血単核球細胞移植併用治療のランダム化試験
12. 維持血液透析患者における中等度から高度の二次性副甲状腺機能亢進症に対する cinacalcet および maxacalcitol 併用による副甲状腺機能抑制効果の検討
13. 維持血液透析患者における軽度の二次性副甲状腺機能亢進症に対する maxacalcitol による副甲状腺機能抑制効果の検討
14. IgA 腎症の腎病理所見と予後の関連に関する前向き多施設共同研究
15. MPO-ANCA 関連血管炎の寛解維持療法におけるミゾリビンの有効性・安全性および血中濃度の関連性に関する多施設共同研究
16. 急性血液浄化領域における SLEDD(低効率・連日長時間透析)システムの構築(第Ⅰ・Ⅱ相試験)
17. ダルベポエチンアルファによる非糖尿病性慢性腎臓病患者の透析導入延長効果に関する検討研究(PREDICT)

#### 外部機構との共同研究・研究交流

- 京都大学物質-細胞統合システム拠点 iPS 細胞研究センター
- 京都大学大学院医学研究科腎臓内科学
- 京都大学大学院医学研究科循環動態学
- 京都大学探索医療研究所・先端医療センター
- 京都大学大学院医学研究科・医療疫学分野
- 京都レイ・パストゥール医学研究センター
- 筑波大学臨床医学系腎臓内科
- 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学
- 名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座腎臓内科学
- 大阪大学大学院医学研究科微生物学研究室
- 千葉大学大学院医学研究院・免疫発生学教室
- 聖マリアンナ医科大学 リウマチ・膠原病・アレルギー内科

#### 日本学術振興会科学研究費補助金事業

1. 基盤研究C  
研究課題名: IFN・サイトカインシステム検討による新型インフルエンザ重症化ハイリスク群の検証  
(H22-24年度)(分担研究者 武曾恵理) 内閣府科学技術振興調整費事業
2. 「スリランカで多発する慢性腎疾患の原因究明」  
(H22-24年度)(分担研究者 武曾恵理)

#### 厚生労働省科学研究費補助金研究

1. 創薬基盤推進研究事業: 政策創薬総合研究  
研究課題名: 人工ガンマグロブリンの製剤化への安全性と臨床試験にむけた評価系の確立に関する研究  
(H22-24年度)(分担協力者 武曾恵理)
2. 難治性疾患克服研究事業  
研究課題名: ANCA 関連血管炎のわが国における治療法の確立のための多施設共同前向き臨床研究  
(H18-20年度)(研究協力者 武曾恵理)  
「ANCA 関連血管炎の診療ガイドライン」作成に参画
3. 難治性疾患克服研究事業  
研究課題名: 進行性腎障害に関する調査研究: 急速進行性腎炎分科会・ネフローゼ症候群分科会・難治性急速進行性糸球体腎炎症候群分科会・IgA 腎症の腎病理所見と予後の関連に関する前向き多施設共同研究会・RPGN 分科会

(H20-22、H23-25年度) (研究協力者 武曾恵理)

\*日本腎臓学会 ネフローゼ症候群診療指針・IgA腎症診療指針第3版・急速進行性腎炎症候群の診療指針第2版の編集に参画

#### 4. 難治性疾患克服研究事業

研究課題名:難治性血管炎に対する調査研究:中小型血管炎臨床研究分科会

(H20-22年度) (研究協力者:武曾恵理)

#### 学会・研究会発表

1. 武曾恵理:CKDにおける脂質異常症のかかわりと対策 京都糖尿病研究会 2013. 5. 25 (京都)
2. 姜伶奈、遠藤知美、有安由紀、新川神奈、山口亮平、三宅崇文、垣田浩子、鳥越和雄、鈴木 洋行、米本智美、武曾恵理:免疫複合体型腎炎の経過観察にANCA 関連血管炎が顕在化した2例 第43回京都腎臓免疫研究会 2013. 5. 25 (京都)
3. 武曾恵理:『CKD ガイド2012』を日常診療に生かす~地域医療連携パスによる共同診療の推進にむけて~ 大阪府内科医会定例講演会:2013. 3. 27 (大阪)
4. Nanayakkara S, Komiya T, Ratnatunga N, Senevirathna ST, Harada KH, Hitomi T, Gobe G, Muso E, Abeysekera T, Koizumi A : Tubulointerstitial damage as the major pathological lesion in endemic chronic kidney disease among farmers in North Central Province of Sri Lanka. 第2回 CKD フロンティア 2013.2.23 (名古屋)
5. 鈴木 洋行、山口亮平、姜伶奈、三宅崇文、山本伸也、垣田浩子、池田昌樹、鳥越和雄、遠藤知美、古宮俊幸、米本智美、深澤晃、尾崎彰彦、松本禎之、武曾恵理:免疫吸着療法が有効であった視神経脊髄炎および視神経脊髄炎関連疾患の2例 第31回日本アフェレシス学会関西地方会 2013. 2. 16(京都)
6. 山口亮平、松本玲子、姜伶奈、三宅崇文、山本伸也、垣田浩子、池田昌樹、鳥越和雄、遠藤知美、古宮俊幸、米本智美、鈴木洋行、深澤晃、瀧玲子、西脇冬子、戸田憲一、武曾恵理:血漿交換が有効であった重症型水疱性類天疱瘡の一例 第31回日本アフェレシス学会関西地方会 2013. 2. 16(京都)
7. 山本伸也、遠藤知美、姜 伶奈、山口亮平、三宅崇文、垣田浩子、池田昌樹、鳥越和雄、古宮俊幸、米本智美、鈴木洋行、武曾恵理:当院における I g A腎症の長期予後の検討:第36回 I g A腎症研究会 2013.1.26 (東京)
8. 武曾恵理:ANCA 関連血管炎に伴う腎病変診療 Up-Date 第38回広島膠原病研究会 2013. 1. 24 (広島)
9. 池田昌樹、山口亮平、姜 伶奈、三宅崇文、山本伸也、垣田浩子、遠藤知美、鳥越和雄、古宮俊幸、鈴木洋行、米本智美、武曾恵理:急性腎炎症候群を呈した糖尿病の一例 第28回腎臨床病理検討会 2012.11.16 (大阪)
10. 遠藤知美、板橋美津世、杉山隆夫、岩崎由加子、垣田浩子、湯村和子、城謙輔、鈴木和男、武曾恵理:我が国におけるANCA 関連血管炎の腎予後予測には、欧米提唱の新たな腎病理分類に尿細管間質病変の評価追加が望ましい 第18回MPO研究会 2012.11.16 (京都)
11. 天久朝廷、荒岡利和、田浦大輔、丹羽明、菅又龍一、曾根正勝、斎藤 潤、浅香 勲、武曾恵理、深津敦司、中畑龍俊、中尾一和、鈴木和男、長船健二:患者由来iPS細胞を用いた顕微鏡的多発血管炎に対する新規疾患モデルの作製 第18回MPO研究会 2012.11.16 (京都)
12. 武曾恵理:難治性ネフローゼ症候群を呈する巣状糸球体硬化症へのアフェレシス療法の効果発現機序の再考察 第33回日本アフェレシス学会シンポジウム 2012.11.9 (長崎)
13. 垣田浩子、山口亮平、姜 伶奈、三宅崇文、山本伸也、池田昌樹、鳥越和雄、遠藤知美、古宮俊幸、鈴木洋行、米本智美、武曾恵理:類天疱瘡のステロイド治療中に薬剤性急性腎不全を発症した高齢男性の一例 第42回日本腎臓学会西部部会 2012.10.26-27 (沖縄)
14. 三宅崇文 古宮俊幸 姜伶奈 山口亮平 垣田浩子 山本伸也 池田昌樹 遠藤知美 鳥越和雄 米本智美 鈴木洋行 武曾恵理:高カリウム血症と低血圧症をきたし4型尿細管性アシドーシスと診断した糖尿病の一例 第42回日本腎臓学会西部部会 2012. 10. 27 (沖縄)
15. 武曾恵理:CKD 診療ガイドライン2012について 大阪腎臓フォーラム2012年 2012.10.11 (大阪)
16. 武曾恵理:CKDにおける尿酸値の意義 北野病院腎臓内科 K2-Net 講演会 2012.9. 27 (大阪)
17. 垣田浩子、山口亮平、姜 伶奈、三宅崇文、山本伸也、池田昌樹、鳥越和雄、遠藤知美、古宮俊幸、鈴木洋行、米本智美、武曾恵理:類天疱瘡のステロイド治療中に薬剤性急性腎不全を発症した高齢男性の一例 第26回京都腎臓セミナー2012.9.22 (京都)

18. 武曾恵理：「腎炎・ネフローゼ症候群の診療アップデート～新ガイドラインのご紹介と地域医療連携パスによる共同診療の実際～」大阪府医師会医学会H24 年度第二回・日医障害教育講座。2012.7.26 (大阪)
19. 塚本達雄、池田昌樹、三宅崇文、垣田浩子、古宮俊幸、米本智美、武曾恵理：二次性副甲状腺機能亢進症 (SHPT) に対するシナカルセト (C) およびマキサカルシトール (M) 併用療法の適応と限界：第 57 回 日本透析医学会 学術集会・総会 2012.6.24 (北海道)
20. 三宅崇文 塚本達雄 垣田浩子 池田昌樹 遠藤知美 古宮俊幸 米本智美 武曾恵理：塩酸ピルジカイニド中毒による心筋伝導障害に対し血液透析が著効した一例 第 57 回 日本透析医学会 学術集会・総会 2012.6.24 (北海道)
21. 武曾恵理、斉藤喬雄、腎と脂質研究会：POLARIS 研究のサブ解析による巣状糸球体硬化症に対する LDL-アフェレシスの治療効果の検討第 57 回 日本透析医学会 学術集会・総会 2012.6.24 (北海道)
22. 鈴木洋行、永井巧雄、中村智宏、近藤守寛 血液透析患者における血清尿酸値と生命予後の関連 第 57 回 日本透析医学会 学術集会・総会 2012.6.24 (北海道)
23. 長谷川由起、高木千恵子、近藤守寛、鈴木洋行 経腸栄養を行う当院透析患者の栄養介入後の変化 第 57 回 日本透析医学会 学術集会・総会 2012.6.24 (北海道)
24. 古久保政徳、小室秀文、高宮久美子、美馬脩平、織田聖章、鈴木洋行：血液透析患者の SPP、ABI 値による下肢潰瘍発生数の検討 第 57 回 日本透析医学会 学術集会・総会 2012.6.24 (北海道)
25. 小室秀文、美馬脩平、古久保政徳、吉田久美子、織田聖章、鈴木洋行：血液透析患者の SPP、ABI 値と合併症との関連性 第 57 回 日本透析医学会 学術集会・総会 2012.6.24 (北海道)
26. 細川典久、前川幹雄、井上賀元、神田陽子、木下千春、神田千秋、永井巧雄、鈴木洋行、近藤守寛、中村智宏、田邊昌史人：VAIVT における病変部位の検討 第 57 回 日本透析医学会 学術集会・総会 2012.6.24 (北海道)
27. 中村智宏、永井巧雄、鈴木洋行、近藤守寛：上腕動脈—鎖骨下中枢部腋窩静脈バイパス術による上腕内シャント造設術の経験 第 57 回 日本透析医学会 学術集会・総会 2012.6.24 (北海道)
28. 永井巧雄、鈴木洋行、近藤守寛、中村智宏：サルポグレラート、ワーファリン使用群とシロスタゾール併用群による人工血管開存率の比較 第 57 回 日本透析医学会 学術集会・総会 2012.6.24 (北海道)
29. 武曾恵理：上海プロジェクトのご報告 北野病院と華山医院ワールドワイドメディカルセンター (HWMC) 共同開催第 10 回健康セミナー 2012.7.16 (中国・上海)
30. 武曾恵理：K2 ネットの現状のご紹介 CKD 診療ガイド 2012 北野講演会 2012.6.16 (大阪)
31. 武曾恵理、斉藤喬雄、腎と脂質研究会：難知性ネフローゼ症候群に対する LDL-アフェレシスの前向きコホート研究 (POLARIS) における予後解析 第 55 回日本腎臓学会学術総会 2012.6.3 (横浜)
32. 天久朝廷、荒岡利和、田浦大輔、丹波 明、菅又龍一、曾根正勝、斎藤 潤、浅香 勲、武曾恵理、深津敦司、中畑龍俊、中尾一和、鈴木和男、長船健二：「顕微鏡的多発血管炎 (MPA)」特異的 iPS 細胞の樹立と病態解析研究 第 55 回日本腎臓学会学術総会 2012.6.3 (横浜)
33. 飛野杏子、武曾恵理、岩崎由加子、米本智美、塚本達雄、中村 肇：尿中 TRX が CKD の予後に与える影響 第 55 回日本腎臓学会学術総会 2012.6.3 (横浜)
34. 古宮俊幸、三宅崇文、垣田浩子、池田昌樹、遠藤知美、米本智美、塚本達雄、武曾恵理：当院における高齢発症膜性腎症の検討 第 55 回日本腎臓学会学術総会 2012.6.3 (横浜)
35. 古宮俊幸、Nanayakkara S、Ratnatunga N、Senevirathna ST、原田浩二、人見敏明、Gobe G、Abeysekera T、小泉昭夫、武曾恵理：スリランカにおける慢性腎臓病の病理組織学的検討 第 55 回日本腎臓学会学術総会<sup>®</sup> スター発表 2012.6.3 (横浜)
36. 木下千春、古宮俊幸、三宅崇文、垣田浩子、神田陽子、池田昌樹、井上賀元、遠藤知美、米本智美、塚本達雄、神田千秋、武曾恵理：肥満患者の糸球体病変の電顕的検討第 55 回日本腎臓学会学術総会<sup>®</sup> スター発表 2012.6.3 (横浜)
37. 古宮俊幸、三宅崇文、垣田浩子、池田昌樹、遠藤知美、米本智美、塚本達雄、武曾恵理：高尿酸血症合併慢性腎臓病患者におけるフェブキソスタットの有効性の検討 第 55 回日本腎臓学会学術総会<sup>®</sup> スター発表 2012.6.2 (横浜)
38. 垣田浩子、三宅崇文、池田昌樹、遠藤知美、米本智美、古宮俊幸、塚本達雄、武曾恵理：ANCA 関連血管炎による末期腎不全透析患者の透析導入後の血管炎再発についての検討 第 55 回日本腎臓学会学術総会<sup>®</sup> スター発表 2012.6.2 (横浜)

発表 2012.6.2 (横浜)

39. 遠藤知美、岩崎由加子、宇野賀津子、垣田浩子、古宮俊幸、三宅崇文、池田昌樹、猪原登志子、米本智美、塚本達雄、城謙輔、鈴木和男、武曾恵理：MPO-ANCA 陽性 MPA 患者において、発症時 SCF 値は腎予後予測因子の可能性を有する 第 55 回日本腎臓学会学術総会 2012.6.1 (横浜)
40. 池田昌樹、塚本達雄、三宅崇文、垣田浩子、遠藤知美、古宮俊幸、米本智美、藤川潤、武曾恵理：外来造影 CT における造影剤腎症の発症頻度の検討 第 55 回日本腎臓学会学術総会ポスター発表 2012.6.1 (横浜)
41. 古宮俊幸、三宅崇文、垣田浩子、池田昌樹、遠藤知美、米本智美、塚本達雄、武曾恵理：当院における高齢発症膜性腎症の検討 第 42 回京都腎臓免疫研究会 2012.5.26 (京都)
42. 武曾恵理：血管炎の診断と治療 大阪府立急性期総合医療センターCPC 2012.4.19 (大阪)
43. 武曾恵理：MEET THE Professor 第 109 回内科学会総会サテライトシンポジウム 2012.4.15 (京都)
44. 武曾恵理：地域で広げる腎臓医キャリア形成支援へのエール 第 1 回男女共同参画を考える腎セミナーin 九州 2012.4.7 (福岡)
45. 遠藤 知美、三宅崇文、垣田浩子、池田昌樹、古宮俊幸、米本智美、武曾恵理：当院における微小変化型ネフローゼ症候群の短期/長期治療成績とその課題 第 1 回大阪腎炎・ネフローゼフォーラム 2012. 4. 7 (大阪)

#### 国際会議

- a. Eri Muso, Takao Saito, and POLARIS Study Group: Long-term Effects of LDL Apheresis for the Drug Resistant Nephrotic Syndrome Evidenced in a Prospective Observational Cohort Study (POLARIS), *ASN Kidney Week* Nov1-4 2012 (San Diego USA)
- b. Tomomi Endo, Mitsuyo Itabashi, Yukako Iwasaki, Hiroko Kakita, Yu Tateishi, Toshiyuki Komiya, Toshiko Ihara, Wako Yumura, Takao Sugiyama, Kensuke Joh, Kazuo Suzuki, Eri Muso: Need of Interstitial Fibrosis Parameter on the Newly Proposed Simplified Glomerular Histological Classification to Predict the Long Term Outcome in Japanese Cohort of MPO-ANCA Associated RPGN *ASN Kidney Week* Nov1-4 2012 (San Diego USA)
- c. Yu Tateishi, Toshiyuki Komiya, Tatsuo Tsukamoto, Eiji Ishimura, Masaaki Inaba, and Eri Muso. Clinico-pathological characteristics of rapidly progressive glomerulonephritis of post-infectious glomerulonephritis, compared with anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis *ASN Kidney week* November 1-4, 2012 (San Diego USA)

#### 論文

1. Yamagata K, Usui J, Sugiyama H, Nitta K, Wada T, Muso E, Arimura Y, Koyama A, Makino H, Matsuo S. : Erratum to: Clinical findings on ANCA-associated renal vasculitis from the Japan RPGN registry obtained via a questionnaire survey *Clin Exp Nephrol.* 2013 Mar 23. [Epub ahead of print]
2. Muso E, Endo T, Itabashi M, Kakita H., Iwasaki Y, Tateishi Y., Komiya T, Ihara T, Yumura W, Sugiyama T, Joh K, Suzuki K: Evaluation of the newly proposed simplified histological classification in Japanese cohort of MPO-ANCA-associated glomerulonephritis in comparison with other Asian and European cohorts *Clin Exp. Nephrol.* 2012 Dec 21. [Epub ahead of print]
3. Torikoshi K, Abe H, Matsubara T, Hirano T, Ohshima T, Murakami T, Araki M, Mima A, Iehara N, Fukatsu A, Kita T, Arai H, Doi T. Protein inhibitor of activated STAT, PIASy regulates  $\alpha$ -smooth muscle actin expression by interacting with E12 in mesangial cells. *PLoS One.* 2012;7(7):e41186. doi: 10.1371/journal.pone.0041186. Epub 2012 Jul 19
4. Yamanishi Y, Ito-Ihara T, Nagao T, Uno K, Kobayashi S, Muso E, Shane PY, Firestein GS, Hashimoto H, Okazaki T, Suzuki K : Clinical features of patients with anti-neutrophil cytoplasmic autoantibodies targeting native myeloperoxidase antigen *Mod Rheumatol.* 2012 Oct 21. [Epub ahead of print]
5. Horio M, Imai E, Yasuda Y, Watanabe T, Matsuo S; Collaborators Developing the Japanese Equation for Estimated GFR. GFR estimation using standardized serum cystatin C in Japan. *Am J Kidney Dis.* 2012.07.007. Epub 2012 Aug 11.
6. Yamagata K, Usui J, Sugiyama H, Nitta K, Wada T, Muso E, Arimura Y, Koyama A, Makino H, Matsuo S. Clinical findings on ANCA-associated renal vasculitis from the Japan RPGN registry obtained via a questionnaire survey. *Clin Exp Nephrol.* 2012 Dec 14. [Epub ahead of print]
7. Ozaki S, Atsumi T, Hayashi T, Ishizu A, Kobayashi S, Kumagai S, Kurihara Y, Kurokawa MS, Makino



- H, Nagafuchi H, Nakabayashi K, Nishimoto N, Suka M, Tomino Y, Yamada H, Yamagata K, Yoshida M, Yumura W, Amano K, Arimura Y, Hatta K, Ito S, Kikuchi H, Muso E, Nakashima H, Ohsone Y, Suzuki Y, Hashimoto H, Koyama A, Matsuo S, Kato H. Severity-based treatment for Japanese patients with MPO-ANCA-associated vasculitis: the JMAAV study *Mod Rheumatol.* 2012 Jun;22(3):394-404.
8. Senevirathna L, Abeysekera T, Nanayakkara S, Chandrajith R, Ratnatunga N, Harada KH, Hitomi T, Komiya T, Muso E, Koizumi A: Risk factors associated with disease progression and mortality in chronic kidney disease of uncertain etiology: a cohort study in Medawachchiya, Sri Lanka. *Environ Health Prev Med.* 2012 May;17(3):213-21.
  9. Nanayakkara S, Komiya T, Ratnatunga N, Senevirathna ST, Harada KH, Hitomi T, Gobe G, Muso E, Abeysekera T, Koizumi A : Tubulointerstitial damage as the major pathological lesion in endemic chronic kidney disease among farmers in North Central Province of Sri Lanka. *Environ Health Prev Med.* 2012 May;17(3):213-21.
  10. Miwa M, Sakao Y, Ishigaki S, Ono M, Fujikura T, Yasuda H, Suzuki H, Kato A, Nagata Y, Shigeno K, Nakamura S, Ohnishi K, Fujigaki Y. Recovery of kidney function by rituximab-based therapy in a patient with Waldenström's macroglobulinemia-related nephropathy presenting cast nephropathy and interstitial lymphocytic infiltration. *Intern Med.* 2012;51:1725-30.
  11. Huang Y, Yamamoto T, Misaki T, Suzuki H, Togawa A, Ohashi N, Fukasawa H, Fujigaki Y, Ichihara A, Nishiyama A, Senbonmatsu T, Ikegaya N, Hishida A. Enhanced intrarenal receptor-mediated prorenin activation in chronic progressive anti-thymocyte serum nephritis rats on high salt intake. *Am J Physiol Renal Physiol.* 2012 ;303:F130-8.

## 和文論文

1. 佐藤有紀、米倉由利子、塚本達雄、垣田浩子、立石悠、古宮俊幸、米本智美、武曾恵理：低マグネシウム血症により治療抵抗性の低カリウム血症および低カルシウム血症を呈した短腸症候群の1例：日本腎臓学会誌 2012;54(8):1197-202
2. 武曾恵理、米倉由利子：5. Goodpasture 症候群 腎と透析 東京医学社 2012 増刊号 291-295
3. 武曾恵理：キャリアもでるインタビュー 文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）しなやか女性医学研究者支援 みやこモデル 平成 23 年度講演録 京都府立医科大学男女共同参画推進センター H23.3 月発行 124-131
4. 武曾恵理：臨床に直結する腎疾患治療のエビデンス第2版 小林正貴、南学正臣、吉村吾志夫編集
5. 武曾恵理：腎・泌尿器科センター構想について 臨床透析別刷 28(4):409-410 2012
6. 武曾恵理、斉藤喬雄、腎と脂質研究会：難治性ネフローゼ症候群に対する LDL アフェレシスの前向きコホート研究（POLARIS 調査）報告 —FSGS 症例とそれ以外の症例の効果および背景の比較— 第23回腎と脂質研究会報告 *Ther Res* 33(2):211-213, 2012
7. 武曾恵理：IgA 腎症動物モデルから学ぶこと 特集 IgA 腎症—明らかになったことと今後の問題点 腎と透析 72(1):14-18, 2012

## 著書（分担執筆）

1. 武曾恵理：キラキラ輝く女性医師 いきいき活躍し続けるためのキャリアマネジメント&ライフサポート よりよい研修ライフを応援する研修医通信 No.46 秋号 2012
2. 塚本達雄、武曾恵理：血漿交換療法 腎・透析診療 最新ガイドライン第1版 草野英二編 総合医学社 2012 pp.160-164
3. 武曾恵理、大谷美穂、松島弘幸：類天疱瘡 VII 各種病態にみられる腎障害 その他の病態 腎臓症候群（第2版）別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ 2012 vol.18 pp.797-800

